

# 考えよう、ケータイとコミュニケーション

深谷中学校 (報告者) 結城 容

## 1. 単元名 考えよう、ケータイとコミュニケーション - 携帯電話のモラル -

### 2. 単元のねらい

現在、幅広い年齢層において、携帯電話によるトラブルや被害が拡大している。これらの原因の多くは、コミュニケーション能力の不足や、自分にも起こり得る問題としての認識不足、リスクに対する視点の欠如によるものと考えられる。特に、携帯電話の利用率の高まる中学生の初期の段階で、被害者にならないための危機に対応する力と、加害者や傍観者にならないための倫理観を育てる学習が必要である。

これらを通して、生徒の社会性の不足や社会の一員としての自覚不足を補い、責任ある行動をとれる人間の育成をめざす。

### 3. 学習指導計画(3時間)

- (1) 携帯電話の問題点と対策・・・(本時)
- (2) 電子メールのマナーとモラル
- (3) 掲示板でのマナー

### 4. 本時の学習指導

#### (1) 目標

携帯電話の特性について理解し、必要なマナーやモラルを身につけることができる。

#### (2) 展開

| 学 習 活 動                                                                    | 機器・教材・教具                                  | 指導上の留意点                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 1 アンケート結果からクラスの実態を知る。                                                      | □教材提示<br>・「アンケート結果」                       | ・携帯電話を持っている人だけが関心をもてるような進め方にならないように注意する。                              |
| 2 携帯電話でできることを確認する。                                                         | ○ワークシートに携帯電話の便利なところと利用上問題になっていることを考え記入する。 | ・あまり深入りせず、発表であがった内容に少し補足説明する程度にとどめる。                                  |
| 3 携帯電話を使って情報交換する上での問題点とその対処方法について考える。                                      | ○ワークシートに携帯電話でのトラブルに対し、どう対処するか記入する。        | ・パソコンと比較して整理。<br>・携帯電話にはどのような問題があり、どのような対応が望まれるかを考えさせながら進められるように留意する。 |
| <div>* 問題点<br/>迷惑メール、チェーンメール、出会い系サイト、メル友とのトラブル、個人情報の流出、人権問題、なりすまし など</div> |                                           |                                                                       |

|                                              |                                                                                |                                                   |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 4 「携帯電話を紛失してしまった時に考えられる被害」を例に個人情報の流出について考える。 | 教材提示(プロジェクター)<br>「体験から学ぶ」(『情報モラル研修教材 2005』教材)<br>○ワークシートに携帯を紛失したときの対処について記入する。 | ・「体験から学ぶ」の画面を見せて、その後どうなるかを予想させる。                  |
| 5 本時の学習のまとめをする。                              |                                                                                | ・携帯電話を使用するときの問題点を知り、どのように活用していったらよいのか理解できたかを確認する。 |

## 5. 情報教育の視点(授業実施のねらい)

携帯電話の普及により生徒にとってケータイは、コミュニケーションをとるために必要不可欠なものになりつつある。それとともに、生徒間同士のトラブルの原因になっているのも事実である。しかし、学校で直接使用しないためか、危険性についてはあまり指導されていない現状がある。

中学生は、中学校入学を機に携帯電話を持ち始める生徒も多い。よって、好奇心の強い時期に情報モラルに関する基礎的な知識を指導しておく必要性を感じる。家庭や一教科に任せるのではなく、「総合的な学習の時間」や学級活動・道徳の授業の中で、トラブルを未然に防ぐような指導していかなければならない。そのためには、生徒指導の一環とし、学校内はもちろん、学校間でも連携し、情報モラルの育成をはかる授業を計画的に進めていく必要がある。

## 6. 成果と課題

授業後の生徒の感想に「教わった対処方法を使わなくてもいいように、ケータイのルールをしっかり守らなければならないと思った」という意見が多かった。情報モラルは、個人の道徳観であり、本人が正しい知識と対応能力を持つことが必要である。そのため、道徳心を育てる教育を教科指導の枠を超えて、全職員で工夫していく必要がある。また、携帯電話はその使用が学校では指導しきれない場所や時間帯が多く、家庭との緊密な連携の必要性を感じた。「トラブルに巻き込まれないよう親として何ができるのか」また、「トラブルに巻き込まれたときはどう対応するのか」は、保護者も指導していく必要性を感じる。

今後も、情報教育を通じて、生徒の社会性の不足や社会の一員としての自覚不足を補い、責任ある行動をとれる人間の育成をめざし研究を続けたい。

### 参考

ネット社会の歩き方 <http://www.cec.or.jp/net-walk/>  
 情報モラル教材 2005 <http://sweb.nctd.go.jp/2005/index.htm>  
 実践事例アイデア集 日本教育工学会